

【現 状】

- 年間の観光客数は、ここ数年概ね250万人で推移
(陶器市：≒125万人 秋の陶磁器祭り：≒18万人 雛のやきもの祭り：≒4万人)
- 観光が「ト」利用件数は、818件 (H29:251件 H30:274 R1:224 R2:69 (1/未))
- 有田館 (内山通りの中心に位置又は観光協会が入館) を拠点に、史跡・施設など周遊
- 有田陶器市、秋の有田陶磁器祭り、有田雛のやきもの祭りでの集客が6割
(主催：有田商工会議所、有田観光協会)
- 観光客の交通手段の割合は、自家用車が8割、電車・バスが2割
- 交通量調査を実施

※令和3年3月1日(月) 晴・曇 午前1時間、午後1時間の調査 (春陽堂前の通行車両)

区分		通過台数	1分あたりの台数
午前(11時~12時)	上り	237(中型トラック3)	3.95
	下り	257(中型トラック2)	4.28
午後(13時30分~14時30分)	上り	262(中型トラック3、大型トラック2)	4.36
	下り	239(中型トラック2)	3.98

内山地区 観光について

【課題】

- 観光の重要なコンテンツである有田焼カラクリ人形（有田館で上映）の劣化
- 普段、閉まっている店舗が多いため、内山通りに対する印象が悪い
- 内山通りは、路肩しかないため歩行者と車両が近く、また速度も速いため歩みにくい
- 駐車場の案内板が少なく、わかり難い
- 観光拠点である有田館の耐震問題また現地の分かりずらさ（少し奥まっている）
- 伝建指定の建物を活かした観光集客が弱い
- アフターコロナを見据えた新たな観光客受け入れ仕組みの構築

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 有田館の現状 ～

施設名	伝統文化の交流プラザ「有田館」	所有者	有田町	運営形態	直営 ・ <u>その他(指定管理)</u>
活用目的	町の伝統文化の推進及び有田焼産業の醸成を図るため、地域活性化の推進拠点とするため				
活用形態(どのように利用)	観光案内、レンタサイクルの貸出し、館内での企画展の開催、からくり人形の上映、喫茶の運営、貸しスペースの貸出し・管理、有田焼の物販				
所在地	有田町幸平1-1-1	構造	鉄筋コンクリート		
階層数	3階建	延床面積	552.74㎡		
建築年月	昭和39年(平成10年改修)	築年数	築57年		
敷地面積	299.84㎡	大規模改修	有(千円) ・ <u>無</u>		
耐震診断	<u>有</u> ・ 無	耐震補強	有 ・ <u>無</u>		
避難所指定	有 ・ <u>無</u>	バリアフリー状況	整備済 ・ <u>未整備</u>		
開館時間	9時30分 ~ 17時	休館日	<u>有</u> (年末年始) ・ 無		

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	361	361	361	360	358
延利用者数	59,604	51,461	45,843	26,719	27,925
1日当たり利用者数	165	142	126	74	78

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 有田館の課題 ～

管理・運営上の問題点	建物・設備	耐震診断(H27)を実施し、コンクリート強度低、配筋量少など補強しても耐久性維持が難しく、解体が望ましいとの診断結果 製作から24年経過し、からくり人形(H8炎博・・・焼物人形が制御システムで動く)の維持管理(メンテナンス)が難しい。
	運営・管理	からくり人形のメンテナンス等による上映の中止、カフェエリアの縮小などにより、来場者・収入の減少
	※上記の記載内容のうち、最も大きな問題点を記載してください。	建物の耐震問題
廃止、転用、複合、統合等に対する法律上の制約又は特殊な経過による配慮すべき事項		平成31年度(当初平成25年度)から令和3年度まで、有田観光協会と指定管理協定を締結
施設の今後の在り方・方向性 (主管課の見解)		有田館は、伝統的建造物群指定地区の中央に位置し、観光拠点としての役割を十分に果たしており、今後も必要な施設である。しかし、建物の耐震性の問題をはじめ、カラクリ人形の維持管理が難しく、対応を早急に検討する必要がある。令和4年度からの運営方法の見直しも含めて令和3年度中に方向性を決定する。
		※上記の記載内容の対応時期(目処) 令和3年度 <u>令和4年度</u> 令和5年度 令和6年度 令和7年度以降
施設での企画展 ※直近1、2年の実績		6～8月ふうりん展 9～11月あつまれ動物展 12～1月秋の陶磁器まつり写真展 2～3月雛まつり展

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ ろくろ座の現状 ～

施設名	体験工房「ろくろ座」	所有者	有田町	運営形態	①直営 ・ その他()
活用目的	伝統ある有田焼の技術の継承及び地域活性化の推進拠点並びに有田町を訪れる観光客等への情報発信のため				
活用形態(どのように利用)	主に観光客向けにろくろ体験・絵付け体験の場を提供し、有田焼産業の情報発信				
所在地	有田町泉山1-30-1	構造	鉄筋コンクリート		
階層数	2階建	延床面積	322㎡		
建築年月	平成2年11月(平成11年改修)	築年数	築30年		
敷地面積	300㎡	大規模改修	①有(3,003千円) ・ 無		
耐震診断	有 ・ ①無	耐震補強	有 ・ ①無		
避難所指定	有 ・ ①無	バリアフリー状況	整備済 ・ ①未整備		
開館時間	9時 ~ 16時	休館日	①有(木曜日) ・ 無		

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	311	311	311	311	311
延利用者数	1,405	1,154	939	896	891
1日当たり利用者数	4.5	3.7	3.0	2.9	2.9

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ ろくろ座の課題 ～

管理・運営上の問題点	建物・設備	外壁のコンクリート、タイルに剥落、漏水跡あり
	運営・管理	
	※上記の記載内容のうち、最も大きな問題点を記載してください。	建物の劣化 ※町公共施設等個別施設計画の中で、現存率(新築を100として現在機能の割合)が58%とされており、劣化度が大きく安全面・機能面に問題があり
廃止、転用、複合、統合等に対する法律上の制約又は特殊な経過による配慮すべき事項		
施設の今後の在り方・方向性(主管課の見解)		町内の民間施設でもろくろ体験・絵付け体験が行われており、また利用者も年々減少傾向にあるため、令和4年度からの運営方法の見直しも含めて令和3年度中に方向性を決定する。
		※上記の記載内容の対応時期(目処)
		令和3年度 <u>令和4年度</u> 令和5年度 令和6年度 令和7年度以降
施設での企画展 近1、2年の実績	※直	

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 赤絵座の現状 ～

施設名	独立支援工房「赤絵座」	所有者	有田町	運営形態	直営 ・ その他()
活用目的	伝統ある有田焼の技術の継承及び窯業後継者の育成を図るため				
活用形態(どのように利用)	有田焼の制作に従事し、陶磁器産業の振興に寄与する意欲があるものの中から、町が作陶家を選定して施設を無償で貸出し、独立の支援を行っている。				
所在地	有田町赤絵町1-2-18	構造	木造瓦葺		
階層数	2階建	延床面積	119.5㎡		
建築年月	昭和17年3月(平成10年、平成25年改修)	築年数	築79年		
敷地面積	267㎡	大規模改修	有(千円) ・ 無		
耐震診断	有 ・ 無	耐震補強	有 ・ 無		
避難所指定	有 ・ 無	バリアフリー状況	整備済 ・ 未整備		
開館時間	不定 ～	休館日	有(不定休) ・ 無		

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	—	—	—	—	—
延利用者数	—	—	—	—	—
1日当たり利用者数	—	—	—	—	—

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 赤絵座の課題 ～

管理・運営上の問題点	建物・設備	
	運営・管理	
	※上記の記載内容のうち、最も大きな問題点を記載してください。	
廃止、転用、複合、統合等に対する法律上の制約又は特殊な経過による配慮すべき事項		
施設の今後の在り方・方向性(主管課の見解)	作陶家の使用期限が令和3年度までとなっており、令和4年度からの運営方法の見直しも含めて令和3年度中に方向性を決定する。	
	※上記の記載内容の対応時期(目処)	
	令和3年度	令和4年度
施設での企画展 直近1、2年の実績	※	

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 旧田代家西洋館の現状 ～

施設名	旧田代家西洋館	所有者	有田町	運営形態	①直営・その他()
活用目的	国の重要文化財に指定された旧田代家西洋館の保存を図るとともに、歴史的建造物に関する資料、歴史資料及び民俗資料を展示を公開することにより、広く文化の向上に寄与し、地域活性化の推進の場を提供するため。				
活用形態(どのように利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開(土日祝、有田陶器市及び秋の有田陶磁器まつりの期間) ・会議、貸館での利用(実績:生涯学習課の事業、有田陶芸協会による企画展(花×器)、婚礼写真の撮影など) 				
所在地	有田町幸平一丁目2番6号	構造	木造		
階層数	2階建	延床面積	311㎡		
建築年月	明治9年	築年数	築144年		
敷地面積	215㎡	大規模改修	有(千円) ・ ①無		
耐震診断	①有 ・ 無	耐震補強	①有 ・ 無		
避難所指定	有 ・ ①無	バリアフリー状況	整備済 ・ ①未整備 トイレのみ		
開館時間	10時～16時	休館日	①有(平日) ・ 無		

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	-	-	116	130	136
延利用者数	-	-	4,489	4,031	5,085
1日当たり利用者数	-	-	38	31	37

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 旧田代家西洋館の課題 ～

管理・運営上の問題点	建物・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・国の重要文化財に指定されており、建物の保存が優先され、活用が限られる。 ・空調設備がないため夏冬の活用が難しい。 ・2階での講演などのイベントは、上限40名程度 ・らせん階段は急で狭く、バリアフリー未対応
	運営・管理	夜間及び平日は職員が常駐しておらず、機械警備となっている。
	※上記の記載内容のうち、最も大きな問題点を記載してください。	空調設備がない。
廃止、転用、複合、統合等に対する法律上の制約又は特殊な経過による配慮すべき事項	文化財保護法	
施設の今後の在り方・方向性 (主管課の見解)		平日の活用増加に努めており、今後も継続する。
		※上記の記載内容の対応時期(目処)
		令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度 令和7年度以降
施設での企画展 ※直近1、2年の実績		平成31年4月～令和元年5月 旧田代家西洋館国指定記念特別展「よみがえるレトロモダン」

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 有田陶磁美術館の現状 ～

施設名	有田陶磁美術館	所有者	有田町	運営形態	直営 ・ その他()
活用目的	陶磁器文化の発展に寄与し、併せて陶磁器産業の振興を図るため				
活用形態(どのように利用)	有田陶磁美術館は、有田町歴史民俗資料館事業と合同で「資料収集」「調査研究」「教育普及」「広報」等を行っており、美術館単体は主に「展示公開」の場となっている。				
所在地	有田町大樽1-4-2	構造	石倉(内部は木造)		
階層数	2階建	延床面積	149㎡		
建築年月	明治7年(昭和29年に改築)	築年数	築147年		
敷地面積	165㎡	大規模改修	不明		
耐震診断	有 ・ (無)	耐震補強	有 ・ (無)		
避難所指定	有 ・ (無)	バリアフリー状況	整備済 ・ (未整備)		
開館時間	9時～16時30分	休館日	(有) 月曜日) ・ 無		

(単位:人)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開館日数	309	308	307	242	308
延利用者数	4,058	4,525	3,846	5,319	4,816
1日当たり利用者数	13.1	14.7	12.5	22	15.6

内山地区 観光施設（公共）の活用整備

～ 有田陶磁美術館の課題 ～

管理・運営上の問題点	建物・設備	昭和29年に美術館として開館して以来、大規模な修繕はなされていないため、電気系統や水漏れ、建具などに劣化が見られる。
	運営・管理	
	※上記の記載内容のうち、最も大きな問題点を記載してください。	美術館開館から67年が経過しており、耐震、電気系統の劣化具合、外壁内壁等がどうなっているか不明の為、調査の必要がある。
廃止、転用、複合、統合等に対する法律上の制約又は特殊な経過による配慮すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> ・建物自体が明治7年に建てられた伝統的建造物に指定されているため、解体等はできず、建物は修理し保存しつづける必要がある。 ・博物館法に基づく登録博物館であるため、廃止等の場合は速やかに県に届け出る必要がある。
施設の今後の在り方・方向性 (主管課の見解)		有田陶磁美術館は明治7年に建てられた石倉を改築し、昭和29年に佐賀県の登録博物館第1号として発足した歴史ある美術館である。近隣に旧田代家西洋館、トンバイ堀が所在し、観光や文化継承、歴史スポットとして重要な構成要素の一つと考えられる。平成30年に展示コンセプトを一新し、旧田代家西洋館と連動した展示になっており、今後各歴史的構成要素(資料館や天狗谷窯跡、陶山神社等)を繋げ、町全体を使ったミュージアムの一角として活用を考えている。
		※上記の記載内容の対応時期(目処)
		令和3年度 令和4年度 令和5年度 令和6年度 令和7年度以降
施設での企画展 ※直近1、2年の実績		平成30年度(10月～11月) 企画展「お茶を召ませ！幕末明治のカップ&ソーサー展」